

平成26年度(第68回)

卒業証書授与式



木下俊児校長式辞より

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。

いよいよ閉校を迎える今年、その寂しさと新生八頭中学校への期待と激励の言葉を多くの方からいただき、船岡地域の温かさ、地域に愛され育てられてきた船中の素晴らしさを改めて実感した1年でした。

君たちは、「船中最後の卒業生」です。特に今年は、そう言われ続けた1年間でした。最後の卒業生としてどうあるべきか、何をすべきか。時には、一体私たちは何を求められているのだろうと、自問自答したこともあるかもしれません。しかしながら、君たちはよくその意を汲み、そのプレッシャーを克服し、最後の卒業生としての責任の重さと閉校への限らない寂しさが去来する微妙な状況にもかかわらず、母校や故郷への想いを、そして、自分たちの使命と心意気を、日々の学習活動や部活動、生徒会活動はもちろん、あらゆる場面で見事に表現してくれました。

「水泳の船中」は東部水泳で男女総合準優勝、女子総合優勝の快挙を達成し、女子駅伝では県大会で「わかば賞」を獲得、小さな学校でもやればできることを証明してくれました。運動会では人文字に刻まれた輝かしい「足跡」に感動し、突然の雨により2日間に分けての開催となりましたが、「神様の涙」はもう一度運動会ができる喜びを与えてくれました。脈々と受け継がれる「船中の文化」を薫り高く伝えてくれた「文化発表会」では、新生八頭中学校がめざす方向をもはっきりと示してくれました。そして、私は忘れることができません。文化発表会で魅せた正に感動の青春ドラマ「15年目の同窓会」。テーマは「故郷と学校」そして「信頼と絆」。「15年目の同窓会」で再会を果たした未来の君たちが、15年前にタイムスリップし、船中卒業を控え仲間と別れゆく寂しさを感じ始めた自分たちの姿を懐かしく回想するという、見事な演出に驚かされるとともに、故郷船岡への想いや誇り、かけがえのない仲間との厚い信頼と固い絆の大切さを、素朴ながらも懸命に伝えようと演ずる姿に心打たれました。3年生全員出演による文字通りの手づくりの青春ドラマに、堂々と立派に自立した青年に成長した姿、成熟した集団に成長した姿を見ることができ、私はとても誇りに思いました。

これから新しい人生が始まります。それぞれの道を歩むこととなります。今日を区切りに新しい世界への新しい一歩を踏み出してください。「船中最後の卒業生」だという自覚と誇りを持って、新しい人生を切り拓いてください。様々なことにチャレンジし、たくさん経験を積んでほしいと思います。成功の対義語は失敗ではありません。何もしない、挑戦しないことです。何もしなければ失敗はありませんが、進歩や発見も成功もありません。何かをしようとすれば、時には失敗することもあります。道は成功へとつながっていきます。失敗を恐れずいろいろなことに挑戦し続けてください。

これからの人生は、順風満帆とはいかないことも多いでしょう。故郷を離れ寂しさに暮れることもあるでしょう。そんな時には、この学び舎を思い出し、「山は高く～ 水は清く～」と口ずさみながら、しっかりと前を向いて歩んでください。そして、「15年目の同窓会」で魅せたあの「仲間との信頼と絆」を一生の宝として、支え合いながら強く逞しく生き抜いてください。

君たちが明日からいなくなると思うと本当に寂しい気持ちでいっぱいですが、君たちの輝かしい未来と、今後の大いなる活躍を祈念して式辞とします。



(来賓、保護者の皆様への謝辞等は紙面の都合上、割愛させていただきました。)